

看護師のみなさんへ “緑と酸素の街”、清瀬で働いてみませんか

複十字病院 院長 工藤翔二

複十字病院は、“緑と酸素の街”で、「呼吸器疾患」、「がん」、「生活習慣病」の専門医療を柱に、地域に根ざした病院として歩みつけています。複十字病院は、働きやすいみなさんの職場です。

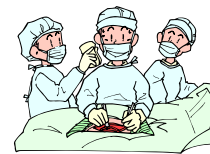


清瀬という街

清瀬市。その昔、日本武尊（やまとたけるのみこと）がこの地を訪れ、「清き土なり」と言ったという「清戸（土）」と、市内を流れる柳瀬川の「せせらぎ（瀬ぎ）」から、一文字ずつとって名付けられたといわれています。複十字病院は、こんな清瀬の中でも、松・竹・梅を冠した周辺の地名（松山、竹丘、梅園）が示すように、緑豊かな地にあります。

人口7万人を超える清瀬市は、いま発展中の街でもあります。JR山手線のターミナル駅である池袋へ西武新宿線で30分。地下鉄有楽町線、新宿副都心線の乗り入れで、銀座や渋谷へも乗り換えなしで行けるようになりました。

緑豊かな清瀬は、かつて結核サナトリウムの街でもありました。複十字病院の周辺には最高時15の病院、5千床を超える結核ベッドがあったといわれています。その伝統を継いで、今、複十字病院をはじめ清瀬市内には、500床を超える呼吸器疾患の専門病床があります。日本でこれほど呼吸器を専門とする街はありません。清瀬は、“緑と酸素の街”でもあるのです。



複十字病院の医療

複十字病院は、財団法人結核予防会（現在の総裁は秋篠宮紀子妃殿下）のもとに、第二次大戦後、日本の結核医療をリードしてきた結核研究所の臨床研究部として発足しました。今、複十字病院は、「呼吸器」、「がん」、「生活習慣病」の3つの専門医療を柱に、地域に根ざした病院として新しい歩みをつけています。

呼吸器センターでは、伝統ある結核医療を結核研究所との連携のもとに、日本でも中核的な役割

を果たしています。年間切除 100 例を超え都内 10 指に入る肺がん診療と、国内最大規模の非結核性抗酸菌症診療は重要な特色です。昨年発足した呼吸ケア・リハビリテーションセンターは、COPD など高齢社会が求める、複十字病院の新しい特色となりつつあります。

胃がん、大腸がんをはじめ消化器疾患の治療にあたる消化器センター、年間切除 100 例を超える乳がん治療にあたる乳腺センターは、呼吸器センターでの肺がん治療や PET センターとともに、複十字病院の「がん」医療の柱になっています。

複十字病院に併設された「健康管理センター」が、健診や人間ドックでみつける糖尿病や心臓病など生活習慣病の入院と外来の医療の充実。これが複十字病院の今年の課題になっています。



働きやすい職場

複十字病院は看護師の中途退職が少ないことも誇りにしています。新卒者でも心配ありません。先輩が後輩を教え、教えることから先輩も学ぶ「プリセプター制度」が、しっかりと定着しているからです。有給消化率は 95%と、院長が経営への影響を心配するほどの高さ。労働基準法遵守の優等生です。

複十字病院は、昨年、広い敷地内に看護師宿舎と保育所を新築しました。看護師宿舎は、バス、トイレ、キッチン設備のあるワンルームで、周囲を気にせず安らげるあなたの住まいです。ママさんになる皆さんには、複十字病院では 40 年前から率先して 24 時間の院内保育を続けてきました。木の香りする広々とした新築の保育園は、夜間でもお子さんを託して安心して働けるあなたの大切な助けです。

こんな複十字病院と一緒に、働いてみませんか？

連絡先：複十字病院 看護部長 河村洋子

事務部副部長 吉田達也

0 4 2 - 4 9 1 - 4 1 1 1 (代表)

【募集要項】 ↓

<http://www.fukujuji.org/ad/index.html#kangosi>